

1の説明文は外岡秀俊『発信力の育て方 ジャーナリストが教える「伝える」レッスン』からの出題です。

問一は「アンコ」(8 行目)が何をたとえているかを問う問題です。この文章では、新聞の外側にある最新のニュースの記事、テレビ、ラジオ欄が、中身にあたる「アンコ」を包むと説明されています。この中身の記事の説明は「暮らしや文化など、時々刻々の動きに左右されない特集面」(5 行目)、また 19 行目「特集や読み物など「アンコ」の記事」とありますので、ここを利用します。

問二「ではなぜ、テレビ欄が最後に印刷されるのか」(10 行目)を説明する問題です。「大きな事件事故があると、テレビ局やラジオ局は翌日の番組編成を組み換え、特集番組に切り替えます。それを告知するために、最新の番組編成に記事を差し替えねばならないからです」(15 行目)とありますので、これを利用します。なお、理由を問う問題なので、解答の文末は「～から。」というようにします。

問三は「もう一つは「教育」です」(55 行目)と示されている、新聞が果たした教育の役割を説明する問題です。「その新しい文体を広げるのに、大きな役割を果たしたのが、新聞でした」(72 行目)とある箇所に注目します。そして、「その新しい文体」の説明が直前の 65 行目から 71 行目にかけての形式段落にあり、そこを要約すると「近代国家」になるために必要な国民共通の話し言葉に近い文体」となります。

問四は「日本の新聞が手がけたものに、文化活動があります。」(76 行目)で示された文化活動ではないものを選択肢から選ぶ問題です。文中には、欧米の王族の紹介は出てきませんので、正解はエです。

問五はこの文章を 2 つに分ける問題です。この文章は新聞の紙面構成と日本人の新聞愛好の背景を説明しています。後半の日本人の新聞愛好に話に移っているのは、31 行目ですので、解答は「ロンドンに」となります。

問六は空欄AからDに適切なことばを入れる問題です。Aにはイ、Bにはア、Cにはエ、Dにはウが入ります。

問七は漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。1 行目から 9 行目までで、新聞の内側の紙面が先に印刷され、最新の出来事を扱う外側の紙面は後に印刷されることが「アンコ」「包装紙」というたとえを使って説明してあり、これは選択肢アと合致します。したがって正解はアとなります。

他の選択肢を見ますと、イでは、はじめの「新聞と週刊誌の作り方の違いを示す」とありますが、「実

は、週刊誌など雑誌のつくりも、これと同じです。」(21行目に)とあるように、筆者は同じ点に着目しているので誤りです。ウでは、後半の「貧しい人々に小説や音楽などを提供する活動をしていた」というところが本文では述べられていません。エでは、後半の「外国にくらべて廉価で、子どものころから新聞を読む習慣があるからである」というところが本文にはありません。

②の物語文は東直子『いと森の家』からの出題です。

問一は12行目「春江ちゃん」のこのときの気持ちを問う問題です。直前の台詞「泰くんのオケラが逃げたので、みんなで捜してるんです」と直後の「立ち上がって、先生をまっすぐに見つめながら言った。」という描写から、春江ちゃんは自分自身を含めた「みんな」の行動を肯定的にとらえていることが推測されますので、選択肢のなかで肯定的な内容となっているアが正解です。他の選択肢は、イでは「自分は関係ないと主張したい気持ち」、ウでは「気まずい気持ち」、エでは「謝罪したい気持ち」とありますので、いずれも合致しません。

問二は「先生が眉間にしわを寄せたまま、押し黙っている」(19行目)の理由を問う問題です。この直後に「生徒たちは、椅子に座ったまま、やがてしんとしずまりかえった」とあり、これは生徒たちが先生の気持ちを汲んだ行動だと判断できますので、解答には「生徒たちを静かにさせる」といった要素が必要です。ただし生徒たちを静かにさせること自体ではなく、話をするのがねらいなのであり、その内容も踏まえて、「オケラで遊ぶことはよくないことを生徒たちに話す」といった要素も必要です。なお、理由を問う問題なので、解答の文末は「～から。」というようにします。

問三は40行目にある③に入る漢字1字を文中から探す問題です。この前後は、「私」が、オケラが子どもに遊ばれる状況を想像している場面です。オケラが子どもにつかまるときに出てくる2本の太い棒のようなものといえば、「指」で、この漢字は「指でつまんでいる」(29行目)という表現の中にあります。したがって正解は「指」です。

問四は「教室中が神妙な雰囲気になった。」(44行目)を説明する問題です。「神妙な」とは「おとなしくすなおであること」という意味ですので、ここでは35行目からの鍵括弧のなかの、「オケラの気持ちを想像してみる」という先生の呼びかけに対してすなおに従ったことを表しています。そして、オケラの気持ちとは具体的には、傍線箇所の直前に「ああ、なんだか辛い」とありますので、解答には「オケラの辛い気持ちを理解した」といったことも必要となります。

問五は「えー、という残念そうな声に、はいという声がかぶさった。」(55行目)という描写から読み取れる子どもたちの気持ちを説明する問題です。この直前の鍵括弧にある「これからは、オケラを学校に持ち込んで遊んではいけません。」という先生の指示に対して、「えー」と「はい」といっているわけですから、解答には、オケラで遊ぶことを禁止されたことを不満に思う気持ちと納得する気持ちの両方があることが書かれている必要があります。そして、「はいという声がかぶさっている」とありますので、納得する生徒の方が多いということも必要です。

問六は慣用句の問題です。一がイ、二がエ、三がア、四がオ、五がウです。

問七は空欄[A]～[D]に適切な擬声語または擬態語を入れる問題です。Aがイ、Bがア、Cがエ、Dがウです。

問八は本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。先生がオケラで遊ぶことを禁止すると言ったときには「えー」という不満の声も上がりましたが、オケラを自然に返し教室にもどったときには「みな空になったヤクルトの容器を手を持って、なんだかはればれとした顔をしていた。」(107行目)という様子をしています。こういった本文の内容に合う選択肢はウですので、正解はウです。

他の選択肢を見ますと、アは前半に「先生は児童がオケラで遊んでいたことを知って驚いた」とありますが、「それで楽しく遊んでいることも、知っていました」(23行目)とありますので、誤りです。イでは最後に「丁寧な扱い方を教えようとした」とありますが、先生は自然のなかで生きているオケラを学校に持ち込むこと自体を非としているのですし説明がずれています。エでは、後半に「オケラを自然に返すときには、放したくないという感情が起こった」とありますが、「オケラには、辛い思いをさせてしまっていたのかなあ。ごめんよ。」(86行目)とオケラに謝罪していますので、誤りです。